



清正号 | No. 00006
平成26年01月29日(水)
発行 書肆べう
ながしろぼんり

縁も高輪。

おセレブ。麻布十番である。白金である。高級住宅街であるがゆえに縁のないところであると思っておった。が、縁があったのである。高野山の金剛三昧院に過去帳がある。

高野山真言宗、金剛峯寺の別院がここ高輪にある。厳密に言えば成田山新勝寺や深川の不動尊ではあかんかったのである。せつかくだし「初詣」という口実が効くうちに出かけることにした。

白

銀台、高輪台、白金高輪、と三つある駅



お か び。

こしい。南北線ととりあえず白金高輪で降りる。道路と建物だけが続く。道路は国道一号线。昔でいうところの東海道である。東海道を挟んで民家と思いき建物が続々と続く。高層マンション、高層マンション、高い塀の屋敷をふたつ挟んで高層マンション。基本的にこの

東 辺りは住宅しか無いのである。うか。なんでえセレブ住宅地とか云って、結局住宅しかねえじゃねえか、と思うも、そもそもセレブな住宅地には何があれば満足なのか。そんなこと考えたこともなかったな。東 海道、白金高輪の駅から

勤 務の警官も暇そうである。怒らせた怖そうなおっ
点がある。脳内人名典ではセイシヨークー、馬の名前ではない、加藤清正である。『へうげもの』でなぜか具志堅用高っぽいあの大名である。名前があるならば銅像の一つも建っているもよさそうなるが、んである。ただただ東海道。とっかかりもひっかかりもないので近所の交番で道を訊くのである。人生のな!
さそ

さんである。ちよつと道をお尋ねします、てえと懇切丁寧だ。懇切丁寧に人生の、もとい東京別院への道を教えてくれる。これ「ちよつと道をお尋ねします」だから道行で済む。「道をお尋ねします」だと「人生のか」などと問いつされかねない。注意が必要だ。

そ いう声を背にしばらく歩くと、云われた通り明治学院大が見えてくる。ここ左に曲がると高輪警察署、隣にあるのが高野山の東京別院だ。
い やあ、何もなかった。考えてみたら高野山本山もあの場所だからこそ観光地たりうるんであつて、基本は修行の場なのであつた。門をくぐると本堂、太子堂、弘法大師像、もろもろ。真言宗のお寺にありそうなものがみんな揃っておる。が、それだけである。ようやく行き着いたものの、メインの行き先はおもんなかった、ということも往々にして、ある。よって載せるべき写真もないのである。

べう式「アタリ」は、

書肆べうの発行する冗句と与太話のフリーペーパーです。出来れば各自でPDFをダウンロードし、プリンターなどを駆使してお楽しみください。A4版です。

御連絡はbanric@gmail.com (ながしろ) まで。

Website : <http://sbew.web.fc2.com/atari/>

金・金・金の世の中にプラチナ

名譽受牌金界名
都の花石鯨
本場・野村外吉

街のルビ
源振太袖
新行松

青梅街道駅。

世の中には一生のうちに降りずに終わる駅というものが多く、当然の話ではあるが、さらにさらに、その存在さえ知らなかった駅というものも存在する。西武多摩湖線・青梅街道駅である。



西武多摩湖線青梅街道駅。「おうめ」と読めるのは東京の人間だけとか

湖線・青梅街道駅である。単線である。当然、青梅街道とクロスするから青梅街道駅となる。

が、青梅街道、長いのである。荻窪駅の北口を通るのも青梅街道なら、新宿の大ガード脇もまた青梅街道である。ただ、「青梅街道とクロスしてるから」青梅街道駅なのだと思います。その位、なんもないとこなんである。近くに小平市役所があるんだから「小平市役所前」でもいいくらい。バス停かつ。その小平市役所の線路を挟んだ向かいの公民館が今回の目的地である。あのー、

従姉の娘(8)が描いた絵がですね、小平市中の小学生のベストセレクションに選ばれたとかで展示してあるつちゅうことなのです。で、観に行こうと思いついちゃまった。酔狂！ 我ながら酔狂！ 池袋から西武線に乗って所沢で乗り換え、東村山で乗り換え、萩山まで乗り換え乗り換えせんければならん。しかもホームが同じで来る電車が別、という初見殺しの按配で、結局面倒になって東村山から国分寺に行つて折り返すわけです。ちなみに従姉の娘は「いとこ姪」だそーです。もつと物々しい呼び名を期待していた読者はがっかりしてよし。



シオンだけあって、版画なんかにはこれは本の表紙を飾つても不思議はないなあ、というものもありました。従姉の母曰く「なんで選ばれたかわからない」てえ話だったけれど、なんかそのー、紙全体の構図で考えられて、色彩感覚的にバランスがとれていれば「まっとうに育っているなあ」と作品から読み取れるんじゃないかな、という感じであった。掲載許可を得ているのでカラーでお見せしよう。どうせPDFだしね。



従姉姪(8)による絵画。大人の視線は汚い。だがうなぎは見つかる

あとは帰るばかり。西武多摩湖線の線路沿いにてくたくと。駅名にもある通り、一橋大学の近辺で食い物屋があたりして比較的にぎわっておる。ここから国分寺、というのが思ったよりある。学生街を抜けるとまたぞろ寂しくなつて、電気機器会社の工場なんかがどーん、ずーんとある。路線バスの様子や道端の地図を逃すと国分寺駅に入るとっかかりが見つかからない。二十分も歩いたかしらん。ようやく国分寺の駅ビルの頭が見えてくる。それにしても国分寺駅の北口は十数年ずっと工事してる気がするな。いつ終わるのオ?



西武多摩湖線一橋学園駅前。休日なのに飯屋には人だかり。

アタリ刊行のおしらせ
・お気づきの方もあつたかもしれませんが、今号からトップの画像を変えてみました。毎回ではなく、数回に一度くらいずつ変えていったらいいんじゃないかなあという感じ。新聞四コマみたいだな。
・今ところ、なんとか月二回ペースで出ていますが、スケジュール的に厳しいので、月一位になるかもです。なんか発信したい気持ちはあるので、月一は死守したい所存。
バックナンバーはこちら
弊紙「アタリ」のバックナンバーはウェブサイトを <http://spew.web.fc2.com/atari/> からご覧いただけます。
まだまだ試行錯誤が続いております。ファイルの圧縮調整にずいぶん骨を折っております。今号も写真が多いから大丈夫かしらん。
といった次第で、今号は以上。